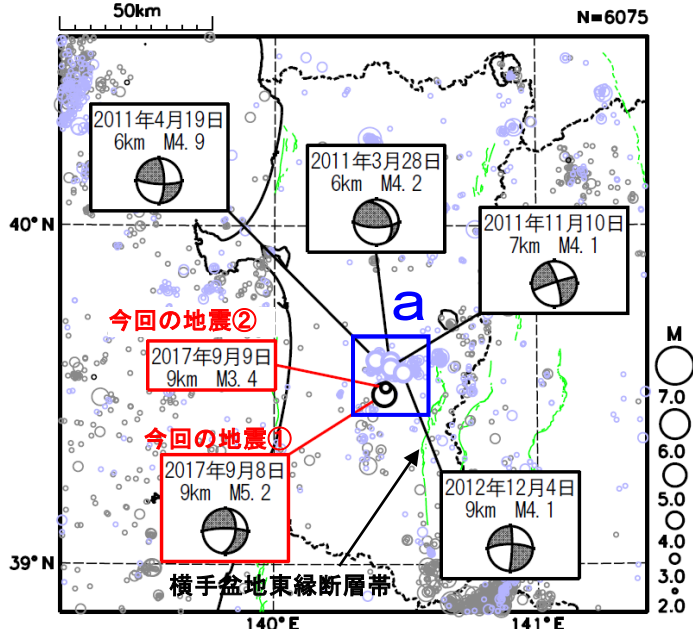


9月8日、9日 秋田県内陸南部の地震

震央分布図

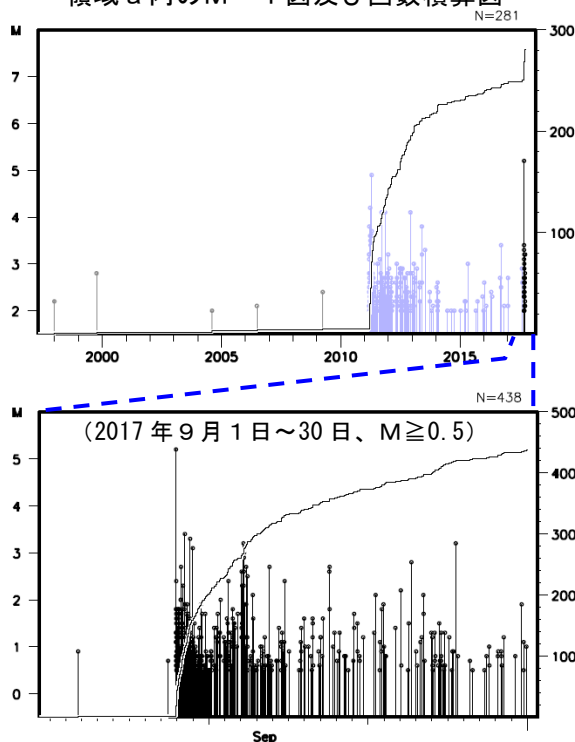
(1997年10月1日~2017年9月30日、
深さ0~30km、M \geq 2.0)

東北地方太平洋沖地震より前に発生した地震を薄い○、
東北地方太平洋沖地震発生以降に発生した地震を○、
2017年9月の地震を濃い○で表示



図中の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



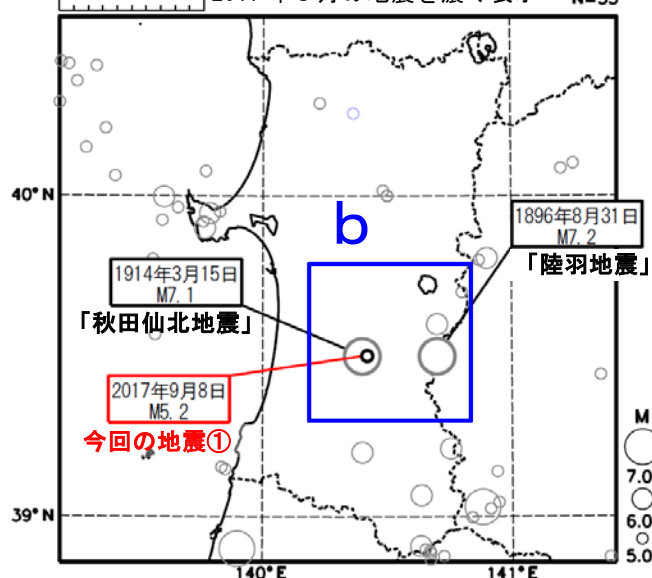
2017年9月8日22時23分に秋田県内陸南部の深さ9kmでM5.2の地震(最大震度5強、今回の地震①)が発生した。この地震により、住家一部損壊4棟の被害が生じた(総務省消防庁による)。また翌9日11時42分にもほぼ同じ場所でM3.4の地震(最大震度4、今回の地震②)が発生した。これらの地震は地殻内で発生した。地震①は発震機構が北西-南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。地震①の発生以降まとまった地震活動がみられており、領域a内では最大震度1以上を観測する地震が9月中に49回(震度5強:1回、震度4:1回、震度3:2回、震度2:12回、震度1:33回)発生している。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域a)では、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」(以下、東北地方太平洋沖地震)の発生以降に活動が活発化しており、今回の地震①が最大規模の地震であった。

震央分布図

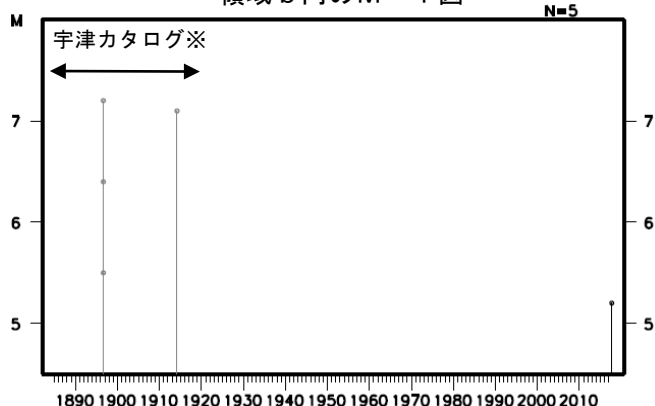
(1885年1月1日~2017年9月30日、
深さ0~50km、M \geq 5.0)

2017年9月の地震を濃く表示



1885年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、1914年3月15日に「秋田仙北地震(強首地震とも呼ばれる)」(M7.1)が発生し、死者94人、負傷者324人、住家全壊640棟等の被害が生じる(被害は「日本被害地震総覧」による)など、M7.0を超える地震が2回発生している。

領域 b 内の M-T 図



※宇津(1982, 1985)による

気象庁作成